



Webサイトを活用した情報発信と情報収集、閲覧動向に関する研究

研究代表者：白阪 琢磨（国立病院機構大阪医療センター
HIV/AIDS 先端医療開発センター）

研究協力者：湯川 真朗（有限会社キートン）

研究要旨

haart-support.jp は、平成 16 年（2004 年）に「多剤併用療法服薬の精神的、身体的負担軽減のための研究」班で開設して以来、継続して運用している。掲載している情報の種類としては、患者さんを対象とした情報と、医療関係者に向けた情報に大別できる。ホームページはユニバーサルデザイン化し、視覚障害者が利用するスクリーンリーダーや音声ブラウザでも情報を過不足なく発信できるようにしている。また平成 28 年度からはスマートフォンでも最適な表示ができるように改修した。これによって、Google や Bing、Yahoo などの検索では常に上位にランキングされている。

アクセス解析には、平成 19 年（2007 年）から Google アナリティクスを導入し、平成 29 年（2017 年）からは一部に Google Tag Manager を導入を始めた。

サイト内には 2 つのタイプのアンケートを設置している。1 つは haart-support.jp 全体に関するアンケートで、もう一つは個別のページから、その内容が役に立ったかどうかを即時送信できるというものである。

このように分担研究者の研究成果や HIV/AIDS に関する情報を、必要とする人（医療関係者、患者等）に効果的に伝達できるよう改良を図るとともに、その閲覧動向を把握し、効果的な情報発信が行うことを目的とする。

研究目的

- 1) 研究分担者の研究成果、活動予告（講演等）等を迅速かつ分かりやすく発信する。
- 2) アクセス状況を解析し、効果的な情報発信を図る。
- 3) スマートフォンなど最新の閲覧環境に対応する。
- 4) Web アンケートによって閲覧者の意見や感想を収集し、改善を図る。

研究方法

アクセス解析では事実上世界標準と言われる Google アナリティクスを導入している。またそれに加え、Google Tag Manager も導入し、より詳細なアクセス解析を行う。

（倫理面への配慮）

当サイト全体のアクセス解析に Google アナリティ

クスおよび Google Tag Manager を採用している。また「早わかり！症状から探す重大な副作用」では独自の履歴をサーバ上に保存している。これらには「Cookie（クッキー）」という技術を用いている。Cookie とは、「Web サイトの提供者が、Web ブラウザを通じて訪問者のコンピュータに一時的にデータを書き込んで保存させる仕組み」（IT 用語辞典 e-Words <http://e-words.jp/> より引用）である。つまり Cookie は訪問者を識別する仕組みであるが、個人を特定するものではなく、個人情報収集のものではない。

研究結果

（1）コンテンツの更新

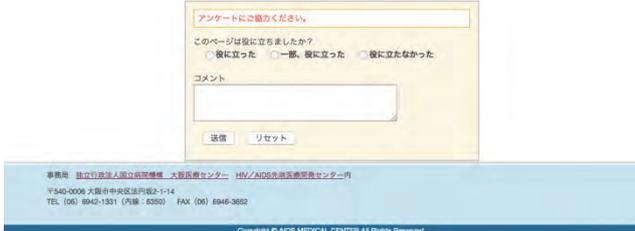
平成 29 年度に新たに分担研究者のページを作成した。

- ・福祉施設における HIV 陽性者の受け入れ課題と対策（研究分担者：山内哲也）
- ・HIV 感染患者における透析医療の推進に関する研究（研究分担者：日ノ下文彦）
- ・エイズ診療拠点病院と在宅あるいは福祉施設の連携に関する研究（研究分担者：下司有加）
- ・精神科医とカウンセラーの連携体制の構築に関する研究（研究分担者：角谷慶子）
- ・HIV 陽性の心理的支援の重要性に関する検討（研究分担者：大山泰宏）

またこれに伴い、トップページのレイアウトも変更した。（図1）



図1 PCでの表示



その他、既存コンテンツの更新や、新薬の添付文書を新たに追加した。

(2) ホームページの改修

タブレットやスマートフォンでの表示を最適化した。具体的には、トップページの場合、PCのブラウザのように横幅の広いウィンドウでは3段組みで表示されるが、タブレットでは2段組み、スマートフォンでは1段組となりメニューもボタンをタップすると表示されるようにした。（図2、図3）

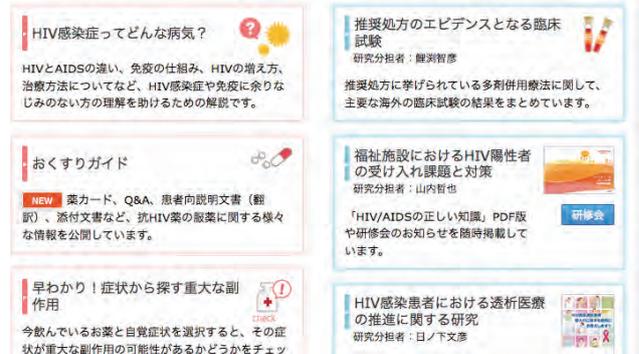


図2 タブレット等での表示

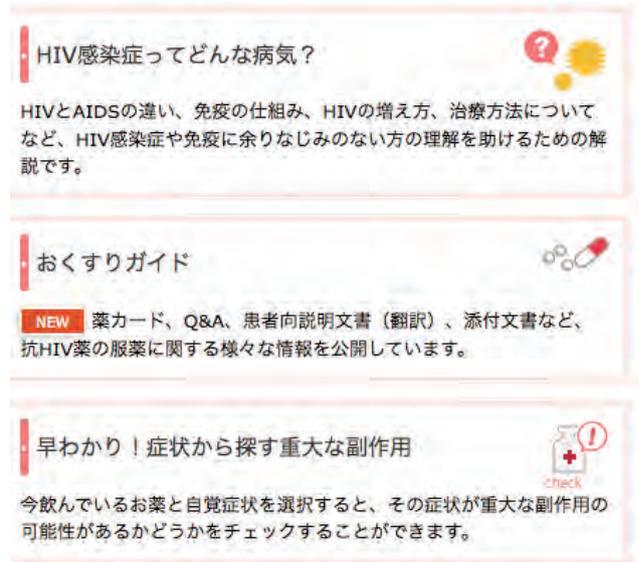


図3 スマートフォン等での表示

(3) アクセス解析

3年間のホームページ全体のアクセス数を示す。（表1）

表1

	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)
PV	207,394	182,685	158,480
ユーザー数	85,124	80,953	77,412

PV（ページビュー）、ユーザー数共に減少傾向となった。その原因としてスマートフォン対応への遅れと、薬剤の情報更新、新薬の掲載の遅れが考えられる。

抗 HIV 治療ガイドライン（研究分担者：鯉渕智彦）は当サイトで最もアクセスの多いコンテンツの一つである（図 4）。改訂版ごとの PDF 閲覧数を表 2 に示す。



図 4 2017 年 3 月版

表 2 PDF ダウンロード数

	H27 年度	H28 年度	H29 年度
2015guidelinePDF	13,569		
2016guidelinePDF		5,925	
2016guideline_v2_PDF		7,779	
20160708_genvoyaPDF		4,197	
2017guideline_PDF 注 1			13,546

注 1) 2015 年版、2016 年版は 12 ヶ月間の公開だが、2017 年版は 9 ヶ月間である。

2016 年度版は一度改定し、説明文書も掲載した。表 2 ではその説明文書 PDF の閲覧数も示したが、ガイドラインのみの閲覧数では年々閲覧数が増えている。

推奨処方エビデンスとなる臨床試験（研究分担者：鯉渕智彦）は毎年新たなデータを追加し更新している（図 5）。PV 数を表 3 に示す。



図 5 推奨処方エビデンスとなる臨床試験

表 3 ページビュー数

	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)
PV	2,215	2,530	2,099

「HIV 感染症ってどんな病気？」は HIV 感染症や免疫に余りなじみのない方の理解を助けるために作成したもので、イラストを多用してかなり簡略化している（図 6）。PV 数を表 4 に示す。



図 6 病気の理解・治療導入編 HIVに感染すると ...

表 4 ページビュー数

	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)
PV	63,650	54,534	51,076

「おくすりガイド」は抗 HIV 薬の添付文書や Q&A、薬カード、患者向説明文書を掲載している（図 7）。PV 数を表 5 に示す。



図7 インデックスページ

表5 ページビュー数

	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)
PV	61,608	52,424	42,691

薬剤ごとのPV数を表6、図11に示す。

表6 ページビュー数

抗HIV薬	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)
TVD	8,116	8,636	7,225
ALL_QA	7,009	6,027	4,109
RAL	4,880	4,735	3,693
ATV	4,095	2,733	2,023
LPV/RTV	2,640	1,884	1,708
TDF	2,846	2,197	1,698
EFV	2,578	1,865	1,638
DRV	2,564	2,397	1,629
EZC	2,685	2,574	1,626
RPV	478	1,620	1,580
AZT	2,319	1,737	1,135
3TC	1,619	1,201	951
ABC	1,639	1,093	945
NFV	1,466	1,040	922
RTV	1,081	1,004	582

DDI	1,184	866	574
ETR	1,088	1,038	551
COM	707	687	440
MVC	742	521	435
SQV	1,220	855	421
FPV	603	539	357
NVP	701	509	291
d4T	435	266	220
FTC	687	398	205
IDV	746	382	186
DVY	0	0	125
DTG	0	0	47
GEN	0	0	36
TRI	0	0	32
CMP	0	0	20
PCX	0	0	14
STB	0	0	12

表6のとおり、ツルバダのアクセス数が突出して多い。これは2012年にFDAが予防目的で承認、2014年にCDCがPrEPのガイドライン (<https://www.cdc.gov/hiv/pdf/prepguidelines2014.pdf>) を策定、2015年にWHOもガイドライン (http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/186275/1/9789241509565_eng.pdf?ua=1) を策定し、ツルバダの予防的投与に関する情報が日本でも広まりつつあることが要因として考えられる。

なお表6では「抗HIV薬すべてのQ&A」(ALL_QA)も含めている。各薬剤ごとのページビュー数は薬カードやQ&A、患者向け説明文書、添付文書も含めた数だが、「抗HIV薬すべてのQ&A」は1ページのみにもかかわらずアクセス数が多いためである。

「早わかり！症状から探す重大な副作用」は、まず症状を選び、次に服用している抗HIV薬を選択することで、重大な副作用に該当するかどうかを判定するシステムで、平成21年(2009年)2月より公開している。システムにはオンラインで利用できるものと、オフライン環境でも使えるアプリケーションがある(図8)。PV数とアプリケーションのダウンロード数を表7に示す。



図 8 早わかり！症状から探す重大な副作用

表 7 ページビュー数

	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)
PV	1,122	822	494
アプリダウンロード	3	9	4

HIV 診療における外来チーム医療マニュアルは HTML 版と PDF 版を公開している（図 9）。PV 数を表 8 に示す。

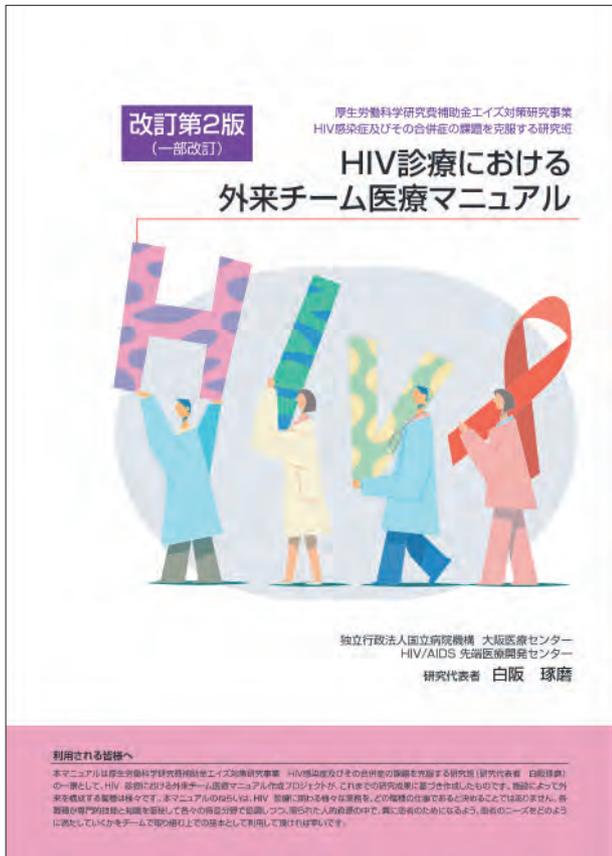


図 9 HIV 診療における外来チーム医療マニュアル

表 8 ページビュー数

	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)
PV	22,777	21,227	17,909

(4) アンケート結果

主なコンテンツページの下には「このページは役に立ちましたか？」との質問に対して評価項目を選択し、送信できるプログラムを設置している（図 10）。集計結果を表 9 に示す。

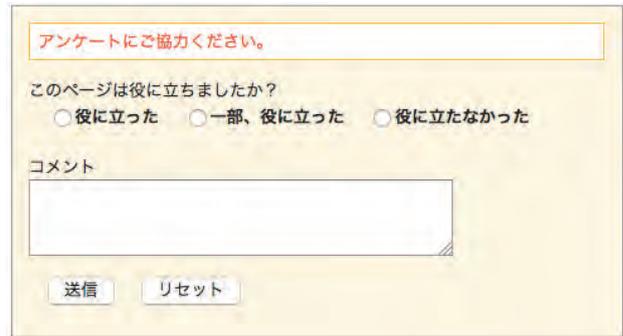


図 10 ページアンケート

表 9 ページアンケート集計結果

	H27 ^{注2)} (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)
役に立った	16	136	136
一部、役に立った	2	10	10
役に立たなかった	0	4	4
未選択	-	-	-
回答数	18	136	150

注 2) 平成 27 年はプログラムの不具合により 11 月～12 月までの 2 ヶ月間のみの集計

このページアンケートでは、以下の意見が寄せられた。

【送信日時】 2015 年 11 月 3 日

【評価】

一部、役に立った

【メッセージ】

満屋博士のテレビを見ていてたどり着く。ヤンセンは精神科領域ばかりでなく、世界に貢献しているのを知った。

【送信ページ】 DRV の添付文書

【送信日時】 2015 年 11 月 19 日

【評価】

一部、役に立った

【メッセージ】

東大医科研病院では対応していないのか？

【送信ページ】だメール

【送信日時】2015年11月25日

【評価】

役に立った

【メッセージ】

中学校の性感染症の調べてる途中でこのページを見ることが出来、阻害薬の仕組みなどについてもよく理解することができました。

【送信ページ】「HIV感染症ってどんな病気？」の「治療法について」

【送信日時】2016年1月26日

【評価】

なし

【メッセージ】

過去のガイドラインも、当サイトのどこかに置いてくださるとたすかります。

【送信ページ】抗 HIV 治療ガイドライン

【送信日時】2016年1月22日 11:33:30

【評価】一部、役に立った

【メッセージ】トランス型は Trance（恍惚）ではなく Trans（～を超えた）では？

【送信ページ】「外来チーム医療マニュアル」の「チームとは」

【送信日時】2016年1月25日 11:46:51

【評価】役に立たなかった

【メッセージ】「病院の中の臨床心理」のデータが壊れていて閲覧できませんでした。

【送信ページ】その他資料・冊子・研究報告書のダウンロード

(確認したが、PDFに問題は無かった)

【送信日時】2016年1月26日 20:32:20

【評価】

【メッセージ】過去のガイドラインも、当サイトのどこかに置いてくださるとたすかります。

【送信ページ】抗 HIV 治療ガイドライン

【送信日時】2016年1月27日 21:53:37

【評価】役に立った

【メッセージ】HBV/HIV coinfection について勉強中です。

【送信ページ】抗 HIV 治療ガイドライン

【送信日時】2016年2月25日 15:43:43

【評価】役に立った

【メッセージ】分かりやすかったです

【送信ページ】「HIV感染症ってどんな病気？」の「プロテアーゼ阻害薬」

【送信日時】2016年4月7日 10:36:37

【評価】役に立った

【メッセージ】昨年から発売されている製品が載っていないのですが

【送信ページ】「おくすりガイド」

【送信日時】2016年4月8日 12:53:41

【評価】役に立った

【メッセージ】毎回、改訂を心待ちにしております。

【送信ページ】抗 HIV 治療ガイドライン

【送信日時】2016年5月5日 19:51:46

【評価】一部、役に立った

【メッセージ】正直子供にはわかりずらかった また短時間で見れなかった

【送信ページ】「HIV感染症ってどんな病気？」

【送信日時】2016年5月9日 5:27:31

【評価】役に立たなかった

【メッセージ】学者オタクの研究論文発表会じゃない！ド素人に如何に分かりやすく正確に説明出来るかが全て！！こんなもの本ではない！

【送信ページ】抗 HIV 治療ガイドライン

【送信日時】2016年5月23日 9:49:03

【評価】役に立った

【メッセージ】医療従事者のばく露対策が一般中小病院でも非常に参考になった。また、見直すいい機会になった。

【送信ページ】抗 HIV 治療ガイドライン

【送信日時】2016年6月29日 9:37:09

【評価】

【メッセージ】針刺し事故での説明会を希望されたため役立つページです。

【送信ページ】抗 HIV 治療ガイドライン

【送信日時】2016年7月8日 10:52:29

【評価】役に立った

【メッセージ】「抗 HIV 治療ガイドライン初回治療推奨薬の改訂について」という文書には日付はありますが、誰が記したのかわかりません。委員会名でもつけておけばよいと思います。

【送信ページ】抗 HIV 治療ガイドライン

(受信した翌日に委員会名を追記した)

【送信日時】 2016 年 7 月 13 日 12:06:56

【評価】 一部、役に立った

【メッセージ】 1 包化出来るか？

【送信ページ】 「おくすりガイド」 TVD 添付文書

【送信日時】 2016 年 8 月 28 日 0:43:42

【評価】 役に立った

【メッセージ】 発症して 1 ヶ月クスリを飲み始めました。親には伝えて無いので退院後、早く働けと催促されますが自分自身まだ体力も戻らない状態です。何か私ができる仕事等か有りますか？

【送信ページ】 「おくすりガイド」 抗 HIV 薬すべての Q&A

【送信日時】 2016 年 9 月 9 日 11:00:53

【評価】 役に立った

【メッセージ】 非常に読み易く解説付きで、他の添付文書もお手本にして欲しい。印刷が簡単にできるともっといいかも。

【送信ページ】 「おくすりガイド」 RAL 添付文書

【送信日時】 2016 年 9 月 20 日 18:18:54

【評価】 役に立った

【メッセージ】 諸先生方の努力に敬意を表しながら、更に学習を怠らずに進めて行きたいと思えます。

【送信ページ】 抗 HIV 治療ガイドライン

【送信日時】 2016 年 9 月 20 日 18:20:25

【評価】 役に立った

【メッセージ】 薬価も併記して頂けると更に良い様に思えます。

【送信ページ】 おくすりガイド

【送信日時】 2016 年 9 月 20 日 18:26:04

【評価】 役に立った

【メッセージ】 症状と部位を入力しなくても、各薬剤毎に副作用について示して頂けると更に見やすく成るように、私は思いました。

【送信ページ】 症状から探す重大な副作用

【送信日時】 2016 年 9 月 20 日 18:39:42

【評価】 役に立った

【メッセージ】 京都大学における寄付講座の、免疫ゲノム医学講座の今後の成果に期待したいと思います。

【送信ページ】 研究者プロフィール

【送信日時】 2016 年 9 月 27 日 19:56:26

【評価】 役に立った

【メッセージ】 ありがとうございます

【送信ページ】 「HIV 感染症ってどんな病気？」

【送信日時】 2016 年 11 月 1 日 12:00:21

【評価】 役に立った

【メッセージ】 お世話になります。平成 27 年度研究報告書を冊子でいただきたいのですが、お送りいただくことは可能でしょうか (着払いでけっこうです)。住所は下記の通りです。ご高配いただけますと幸いです。

【送信ページ】 その他資料・冊子・研究報告書のダウンロード (事務局に転送した)

【送信日時】 2016 年 11 月 11 日 22:43:43

【評価】 役に立った

【メッセージ】 現在国立大阪医療センター内で入院している〇〇と申します。なかなか飲みにくくて、こんな飲み方やら参考になりました

【送信ページ】 「おくすりガイド」 のカレトラの Q&A

【送信日時】 2016 年 12 月 7 日 12:20:02

【評価】 役に立たなかった

【メッセージ】 内容があまりにも簡単すぎる。もっと深い説明がほしい

【送信ページ】 「HIV 感染症ってどんな病気？」 の「HIV の増え方」

【送信日時】 2016 年 12 月 19 日 9:28:16

【評価】 役に立った

【メッセージ】 ここまで研究が進んでいるとは知りませんでした

【送信ページ】 「HIV 感染症ってどんな病気？」 の「CCR5 阻害薬」

【送信日時】 2016 年 12 月 30 日 14:43:33

【評価】 役に立った

【メッセージ】 看護学生です。106 回の国家試験を受験します。薬理の勉強のためにこのページを見ましたが、図と説明文が簡単で見やすくとてもわかりやすかったです。イメージもつきやすいです。

【送信ページ】 「HIV 感染症ってどんな病気？」 の「インテグラーゼ阻害薬」

【送信日時】 2017 年 1 月 20 日 13:53:41

【評価】 役に立った

【メッセージ】 TAF 関連のエビデンスも掲載してく

- ださい。
【送信ページ】 推奨処方のエビデンスとなる臨床試験
- 【送信日時】** 2017年1月25日 10:07:41
【評価】 役に立った
【メッセージ】 すごく役に立ちました。ありがとうございます
- 【送信ページ】** 抗 HIV 治療ガイドライン
- 【送信日時】** 2017年2月25日 22:19:42
【評価】 一部、役に立った
【メッセージ】 それ以外に免疫システムが働かない理由は何か？
【送信ページ】 「HIV 感染症ってどんな病気？」の「免疫システムを破壊する HIV」
- 【送信日時】** 2017年4月12日 8:51:24
【評価】 役に立った
【メッセージ】 Europe US の知見に基づいており、記述がわかりやすい。
【送信ページ】 抗 HIV 治療ガイドライン
- 【送信日時】** 2017年4月25日 16:04:02
【評価】 役に立った
【メッセージ】 とても参考になりました！
【送信ページ】 抗 HIV 治療ガイドライン
- 【送信日時】** 2017年5月14日 18:15:31
【評価】 役に立った
【メッセージ】 絵がわかりやすい
【送信ページ】 「HIV 感染症ってどんな病気？」の「HIV の増え方」
- 【送信日時】** 2017年5月14日 21:02:55
【評価】 役に立った
【メッセージ】 分かりやすいです。
【送信ページ】 「HIV 感染症ってどんな病気？」の「インテグラーゼ阻害薬」
- 【送信日時】** 2017年5月14日 21:07:00
【評価】 役に立った
【メッセージ】 HIV-1 の Nef がバイスタンダー B セルの IgD に感染することから IgD の研究ももっと進むと良いと思います 大学院生 **【送信ページ】** 「HIV 感染症ってどんな病気？」の「治療法について」
- 【送信日時】** 2017年5月27日 17:00:33 GMT
【評価】 役に立った
- 【メッセージ】** 素晴らしく分かりやすい説明でした。仕組みをすぐに理解することができました。ありがとうございます。
- 【送信ページ】** 「HIV 感染症ってどんな病気？」の「HIV の増え方」
- 【送信日時】** 2017年6月29日 9:00:15
【評価】 役に立った
【メッセージ】 HIV/AIDS 先端医療開発センター 御担当者様
 平素よりお世話になっております。
 職員及び学生の研修のため
 抗 HIV 治療ガイドライン（2017年3月発行）の冊子を希望いたします。
 希望部数 10部（可能でしたらポケット版）
 どのように手続きすればよろしいでしょうか
 御返信お待ちしております。
 何卒宜しくお願い申し上げます。

 防衛医科大学校病院
 薬剤部

- 【送信ページ】** 抗 HIV 治療ガイドライン
- 【送信日時】** 2017年7月9日 15:54:03
【評価】 一部、役に立った
【メッセージ】 俺はエイズって言われているよ！でも薬は飲み続けているよ！
【送信ページ】 「おくすりガイド」抗 HIV 薬すべての Q&A
- 【送信日時】** 2017/07/26 06:28:28
【評価】 役に立った
【メッセージ】 治療ガイドラインという題名なので治療だけと心配になったが、診療上必要なことが含まれ安心した。
【送信ページ】 抗 HIV 治療ガイドライン
- 【送信日時】** 2017/09/19 10:48:12
【評価】 役に立った
【メッセージ】 わかりやすいです。
【送信ページ】 「HIV 感染症ってどんな病気？」の「CD4 陽性リンパ球細胞の数」
- 【送信日時】** 2017/09/30 15:19:02
【評価】 役に立った
【メッセージ】 サンキュー。
【送信ページ】 「HIV 感染症ってどんな病気？」の「CCR5 阻害薬」

ホームページに関するアンケートの集計結果を表 10 に示す。

表 10 サイト全体に関するアンケート集計結果
(平成 27 年～平成 29 年)

設問		計
年齢	10 代	0
	20 代	1
	30 代	6
	40 代	6
	50 代	7
	60 代以上	4
性別	男性	17
	女性	6
あなたの立場	患者	6
	患者の家族・友人等	4
	医療関係者	14
	その他	1
このホームページをどこでお知りになりましたか？	検索エンジン	12
	他のホームページからのリンク	3
	友人・知人に教えてもらった	0
	医療関係者に勧められた	4
	その他	6
役に立った内容	薬カード	7
	Q & A	10
	患者向説明文書（翻訳）	4
	添付文書情報	5

注 3) 平成 27 年はプログラムの不具合により 11 月～12 月までの 2 ヶ月間のみ集計

自由記述欄（欲しい情報、ご意見、ご要望）に入力のあった投稿を以下に紹介する。

[このホームページをどこでお知りになりましたか？]

メーリングリストの方から紹介 (IDATEN)

(立場：医療関係者)

マラビロクについて調べていたら

(立場：医療関係者)

CD4 値を上げる方法はないか検索していたら出てきた

(立場：患者の家族・友人等)

[欲しい情報]

トリーメク (DTG + ABC/3TC) の情報を掲載して欲しい。

初回 ART、服用開始から 11 日目で体温調整が出来ていないので情報を探しています。

会社も休みがちで会社には自宅作業を申請。

(立場：患者)

薬害からの HIV 感染症の血液透析状況。また、血友病だけの疾患の血液透析状況。移植でも可。また、全国の透析クリニック（病院）の受け入れ可能一覧。

(立場：患者)

患者だけでなく、その家族に、ウィルス感染を防ぐ意味で予防的服用が実現できないか、また、非感染者がその薬を飲むとどうなるのか知りたい。

(立場：患者の家族・友人等)

[4. ご意見、ご要望]

北里大の大村先生や熊本大学満屋裕明先生のテレビ番組から偶然たどり着き、少し発奮しました。HIV の患者の件は、たまに書類等にみられ、関心はありました。

(立場：医療関係者)

医療従事者です。はじめて、拝見しましたが実に分かりやすく記載されていました。今後とも活用させていただきたいと思いました。

(立場：医療関係者)

抗 HIV 薬の添付文書情報を参照するために検索したのに、更新情報が 2013 年現在では意味がない。

(立場：医療関係者)

考察

ホームページ全体のアクセス数は減少傾向にある。その中で坑 HIV 治療ガイドラインは増加傾向を続けており、注目度の高さが伺われる。

ホームページのアクセス数の減少の原因としては、モバイル対応の遅れ、おくすりガイドに掲載している坑 HIV 薬の更新が滞っていたこと、そしてインターネットの普及により情報の入手先の分散化などが考えられる。

モバイル（タブレットを含む）のアクセス数は、平成 27 年（2015 年）に 48% 近くに達していたが未対応だった（PC での見た目がそのまま縮小されて表示）。モバイルへの対応は平成 28 年から 29 年にかけて順次改修した。

おくすりガイドでは坑 HIV 薬の薬カードや Q&A、添付文書、患者向説明文書（翻訳）などを掲載しているが、長年新薬を加えていなかった。このため平成 28 年 8 月から順次、デシコビ配合錠 LT/HT(DVY)、コムプレラ配合錠 (CMP)、テビケイ錠 (DTG)、ゲンボイヤ錠 (GEN)、スタリビルド配合錠 (STB)、トリーメク配合錠 (TRI)、プレジコビックス配合錠 (PCX)、ノービア内用液 (RTV) を追加した。

このようにアクセス数の減少は見られるものの、検索での表示ランクは依然として高い。Google で実際に検索してみると（平成 30 年 1 月 11 日現在）、キー

ワードが「haart」の場合、4番目にランクされた（「日本語ページを検索」にしたため、総数は不明）。表11ではキーワードごとに当サイトの表示ランクと、検索結果に出てきたページを示す。

なおこの検索では検索者（すなわち本著者）の個人的な関連を排除するため、「プライベート検索結果を使用しない」にして検索した。

表 11 検索キーワードランキング

キーワード	検索結果ランク	検索対象ページ
haart	4	抗 HIV 治療ガイドライン
hiv 治療	7/ 約 451,000 件	抗 HIV 治療ガイドライン
hiv 治療 課題	2/ 約 426,000 件	トップページ
hiv 課題	4/ 約 425,000 件	トップページ
hiv 透析	9/ 約 427,000 件	HIV 感染患者における透析医療の推進に関する研究（研究分担者：日ノ下文彦）
抗 HIV 薬	15/ 約 213,000 件	抗 HIV 薬全般に関する Q&A
ツルバダ	3/ 約 14,400 件	ツルバダ配合錠の添付文書

「ツルバダ」はおくすりガイドの中で最も PV（ページビュー）が多い（7,233/平成 29 年）ため確認した結果である。

表 11 で示したとおり、HIV の治療や薬剤に関する検索では上位にランクされており、ホームページの存在意義や価値は高いと言える。

結論

当ホームページは今ほど普及していない平成 16 年（2004 年）に開設し、積極的に情報発信を行ってきた意義は大きい。また掲載内容も患者さん向け情報から医療関係者向けの情報まで幅広く掲載しており、独自性・専門性の高い存在といえる。今後は移り変わりの激しいユーザーの閲覧環境にも迅速に対応することや、新薬などの情報をいち早く掲載していくことが重要と考える。

健康危険情報

該当なし

研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

該当なし

知的財産権の出願・取得状況（予定を含む）

該当なし

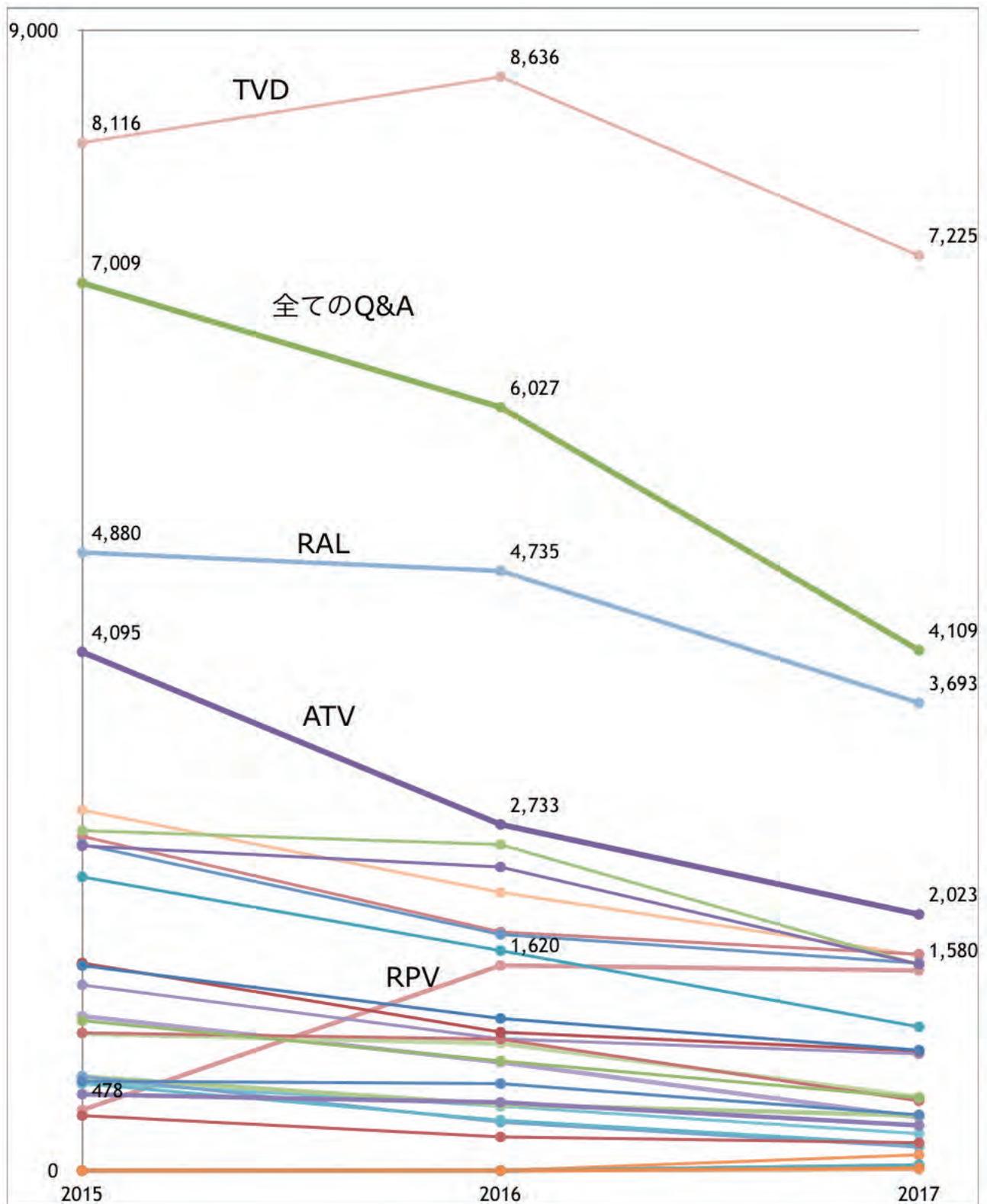


図 11 薬剤ごとの PV 数の推移